

国際文化学科・3つのポリシー

学位授与方針(ディプロマポリシー)

国際文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に卒業の認定を行い、学士（国際文化学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- (1) アジア諸地域の歴史・政治・経済・社会・芸術・文化に関する基本的かつ広範な知識を修得している。
- (2) 異文化への理解を基礎に、特定の専攻分野に関する専門的知識を修得している。

2. 思考・判断

- (1) 卒業論文等において、問題の発見・設定からその解決方法の提示にいたる一連の研究に取り組み、一定の成果をあげている。
- (2) 異文化理解や専攻分野に関する専門的な知識を基礎に、国際社会に生起する諸事象を多面的に考察し、自らの意見を論理的に構成することができる。

3. 技能・表現

- (1) 教育研究上の目標の実現に相応しい英語およびアジア言語の運用能力（コミュニケーション能力）を有している。
- (2) ICTや数量的スキル等を活用して、諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。
- (3) ロジカルシンキングやクリティカルシンキングをふまえた文章表現や口頭表現、ディスカッションができる。

4. 関心・意欲・態度

- (1) 生涯学習を視野に、専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために主体的かつ計画的に行動することができる。
- (2) 地域社会の一員としての倫理観と責任感をもって、背景や意見の異なる他者と協調・協働して問題解決にあたることができる。
- (3) 国際社会の一員として、現代世界の諸問題と持続的に向き合い、多文化共生社会の実現に向けて行動する意欲を有している。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)

国際文化学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) アジア諸地域に関する基本的な知識を修得させるため、比較文化論を必修科目とし、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの4地域の地域研究科目10科目20単位以上を選択必修とする。
- (2) アジア地域や異文化に関する学修を、特定の専攻分野の選択やキャリア形成につなげるために、「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」の三つのクラスター(科目群)を設置する。
- (3) 専門演習(3年次)と卒業論文演習(4年次)を必修科目とし、4年間の学びの集大成としての卒業論文の作成に取り組ませる。
- (4) 外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、「Global English」(1年次必修)と言語文化講座(8言語)を開設し、現地研修や海外留学の奨励、各種検定の単位認定制度等によって外国語学習を支援する。
- (5) 諸課題の解決に必要な情報の収集・整理・分析、報告や討論の技術を実践的に学ばせるために、1年次のチュートリアル、2年次の基幹演習Ⅰ・Ⅱを必修科目として開設する。
- (6) 特定の専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために、クラスター科目に加え、より実践的な「企業と雇用」「インターンシップ準備講座」等を開設する。
- (7) アジア理解の基礎となる幅広い教養を培うために、全学共通科目と外国語科目(ドイツ語・フランス語)を選択科目として配置する。

2. 教育方法

- (1) 国際社会に生起する諸事象を多面的に考察する力をつけるために、地域研究科目やクラスター科目等においても、課題解決型学習(PBL・TBL)やキャップストーン(CS)、フィールドワークやワークショップ等を活用した主体的な学び(アクティブラーニング)の場を提供する。
- (2) 社会人として必要とされる責任感や倫理観、チームワークやリーダーシップ等のジェネリックスキルを習得させるために、DACIX(Daito Asian Communication Index)制度により「学生による企画・実行・参加型の活動」や国内外におけるボランティア活動を奨励する。
- (3) 多文化共生社会の実現に向けた意欲や行動力を涵養するために、「国際協力・多文化共生」をクラスターに配置し、また「現地研修」や「インターンシップ・イン・アジア」「留学」等により現地体験型学習を推奨する。

3. 評価方法

学位授与方針に掲げられた各種能力の形成的評価を、以下のような方法を用いて複合的に行

う。

- (1) 単位取得状況および GPA
- (2) 各種検定（資格）等の取得状況
- (3) 学習到達度確認レポート等
- (4) 各種ルーブリック（情報リテラシー・アカデミックリテラシー・キャリアデザイン）を活用した演習指導教員による個人面談
- (5) 「卒業論文ルーブリック」に基づく卒業論文審査
- (6) 外部アセスメント（JCSS 等）
- (7) 学部の卒業時アンケート（卒論提出時に実施）

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

国際文化学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校で履修する国語、外国語、地理歴史、公民等について、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 物事を多面的かつ批判的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。
- (2) 主体的に課題を発見し、異なる意見をもった他者と、その解決に向けて協働で取り組むことができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) アジア諸地域の文化や歴史に対して強い興味関心をもっている。
- (2) 留学や現地研修など、現地体験型学習に積極的に参加する意欲をもっている。
- (3) グローバル社会の一員として、広い意味の国際協力や国際交流に貢献する意欲をもっている。

【別表】入試方式・選抜方法とAPの関係

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー					
		1 知識・技能	2 思考力・判断力・表現力		3 主体的に学習に 取り組む態度		
		(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)
センター（前・中・後）	センター試験	●					
全学部共通（前・後）	学力試験（国・英）	●					
一般三教科	学力試験	●					
自己推薦（前・後）	課題理解・討論報告	●	●				
	集団討論		●	●			
	自己推薦書		●		●	●	●
	個人面接				●	●	●
指定校推薦	調査書	●		●			
スポーツ推薦	個人面接				●	●	●
公募制推薦	模擬講義・概要作成	●	●				
	調査書	●		●			
	個人面接				●	●	●
特別選抜試験 （社会人・留学生）	調査書	●		●			
	小論文		●				
	個人面接				●	●	●

以 上